

北 河 内 会 報

自 然 愛 好 会

2017年4月25日 №.99
北河内自然愛好会発行
事務局：大東市野崎 3-7-7
西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

2017年度北河内自然愛好会総会 2017年1月21日(土) 14:00~16:30 交野市(報告・太田 理)

◎総会議事(14:00~) ()内は担当者・敬称略)

1. 開会宣言 2. 西畑敬一会長挨拶 3. 2016年度行事報告(田中光彦) 4. 2016年度会計報告(稲原良三) 5. 2017年度行事計画(田中光彦) 6. 2017年度予算案(稲原良三)

7. 『北河内の植物目録—補遺』について(西畑敬一・木村雅行)

北河内自然愛好会観察会 400回に向けて—例会記録アーカイブス作成について(太田理)

8. その他 9. 会長・会計・運営委員選出・紹介(西畑会長) 会長：西畑敬一、会計：稲原良三、運営委員：太田 理(会報編集)、稲原ヒサエ、北川ちえこ、木村雅行、鈴木永子、平 研、高見君江、田中光彦、中町芥子、中山千代美、西村寿雄

10. 会員発表(14:30~16:30) 1. 「タイでの農業研修で見た自然」西畑敬一 2. 「北河内の最近の植物から」田中光彦 3. 「“犬も歩けば”写真集—北河内 ML(メーリングリスト)から」平 研

11. 閉会宣言

◎2016年度行事報告()内は担当者・敬称略)

1月 1/31(土) 2016年総会 2月 2/14(日) 第372回例会「鶴見緑地野鳥観察」(平 研)(雨天中止) 3月 3/26(土) 第373回例会「野草を食べる—山田池公園」(西畑敬一・稲原良三) 4月 4/10(日) 第374回例会「里山—斉調査・下田原の里山」太田 理) 5月 5/21(土) 第375回例会「深北緑地植物観察」(西畑敬一) 6月 6/18(土) 第376回例会「飯盛山の植物観察と飯盛城跡」(西畑敬一・太田 理) 7月 7/3(日) 第377回例会 「金剛山麓の自然」(田中光彦) 9月 9/15(木) 第378回例会「尊延寺を歩く」(田中光彦) 10月 10/22(土) 第379回例会「キノコの観察会」四條畷市室池園地(西畑敬一) 11月 11/28(月) 第380回例会「西宮市・甲山の自然(地質・湿原植物・その他)」(田中光彦・稲原良三) 12月 12/10(土) 運営委員会

◎2017年度例会年間予定()内は担当者・敬称略)

1月 2017年総会 1/21(土) 14:00~16:30

2月 381回例会 2/18(土) 10:00~14:00 鶴見緑地野鳥観察(平 研)

3月 382回例会 3/25(土) 9:30~15:00 野草を食べる—山田池公園(西畑敬一・稲原良三)

4月 383回例会 4/4(火) 10:00~ 京都植物園の草木観察(田中光彦)

384回例会 4/9(日) 9:30~15:00 自主参加：「里山—斉調査」四條畷市下田原(太田理)

5月 385回例会 ~~5/9~~→**変更 5/16(火)** 「南港野鳥園緑地観察」(北川ちえこ)

6月 386回例会 6/17(土) 「淀川の植物観察」(木村雅行)

7月 387回例会 7/ 「交野~白旗池から源氏の滝へ」(田中光彦) ヤマジノホトトギスの咲く頃

8月 休会

9月 388回例会 9/ 「西宮市・甲山の自然、甲山森林公園」(西畑敬一・稲原良三)

10月 389回例会 10/ 「岸和田市・神於山の自然」(田中光彦) 地元ガイドの案内

11月 390 回例会 11/ 「交野の地層観察」

12月運営委員会 ※例会内容は変更することもあり、ご了承をお願いいたします。

◎参加者：稲原ヒサエ、稲原良三、太田 理、岡田三千代、岡本美恵子、奥田久美子、木村雅行、小島久美子、鈴木永子、平 研、高見君江、田中潤子、田中英明、田中光彦、長島照文、中町芥子、西畑敬一、古澤千恵、松下昭、山田晃、山田美鈴、山田良之、（以上 22 名）

第 381 回例会 「鶴見緑地野鳥観察」大阪市 2017年2月18日（土） 平 研

※例会報告はカラーグラビア版に掲載しています。

◎参加者：石井洋子、稲原ヒサエ、稲原良三、岩井幸恵、大津由紀子、岡田三千代、影千恵子、北川敏子、木村文子、小島久美子、鈴木永子、高見君江、田中光彦、平 研、中町芥子、西畑敬一、西畑通子、松下昭、無記名 1 名（以上 19 名）

第 382 回例会 「野草を食べる一山田池公園」枚方市 2017年3月25日（土） 北川ちえこ

晴れ。天候に恵まれ、予想に反し暖かく、29 名が参加しました。昨年と同じコースで農業用水路の横道を西畑さんの指導の元、食せる野草を摘みました。昨年より種類が少なかったように思います。コオニタビラコ、スマレ、スズメノエンドウ、タネツケバナ、ノミノフスマなどあっても採集するほどはありませんでした。沢山あったのはセイヨウカラシナ、ノビル、ヤブカンゾウ、ヨモギで特にノビルの球根は大きく食べごたえがありました。畑ではヒバリやモズやケリが鳴いていました。山田池公園の手前の川沿いの通路ではカワツザクラ（河津桜）が葉の展開と共に咲いていました。花はまだきれいでしたが、見ごろは終わっていました。

キャンプ場につくと、先に来ていた稲原さんがブルーシートや机のセッティングなどをしていていました。いつも感心するのですが、皆さん指示されることも無く、自分の持ち場につき手際よく野草を食べる準備をします。

今年も、美味しそうな野草料理が机いっぱいにおかれました。と言ってもほとんどが天ぷらと、ゆでたものでした。味付けは、昨年の北川の意見が取り入れられ数種の調味料を自分で選ぶやり方でした。で、味の方ですが、全体的に野草独特の香りが薄い、多くの種類は暖かい間はクセも少なく食べやすいのですが、冷えると苦味が益します。天ぷらもそうですが、ゆでたものよりは食べやすいです。天ぷらの多くは最後に甘味を感じましたが、昨年までは食材の甘味だと思っていましたが、暖かいものと冷えたものと両方食べて、油の甘味ではないかと思いました。意外だったのは、同じヨモギ団子でも、キナコとミタラシではミタラシの方が圧倒的にヨモギの味がしました。今年は、多くの野草の本来の味や食感を知りいっそう楽しかったです。沢山の準備をさせていただきました稲原夫妻に感謝です。

調味料...醤油、ゴマ油、酢、塩、コショウ、レモン果汁、ゆずポン酢、みりん、かつお節、ガーリックオニオン、すりごま（醤油、みりんで味付け）

オオカワヂシャ...葉・ゆがき（カラシナのような味だが冷えるとかなり苦い）

オニノゲシ...葉・天ぷら（味分からない、トゲ気にならない）

オランダガラシナ（クレソン）...葉・天ぷら、ゆがき（カラシナのような味、辛味より苦味が多い）

カラスノエンドウ...葉・天ぷら、ゆがき（どちらも全くクセがない）



調味料各種

カンサイタンポポ...花・天ぷら（味分からない） 葉・ゆがき（少し苦味）
 スカシタゴボウ...葉・天ぷら、ゆがき（苦味が強い、特に冷えると）
 スイバ...新芽・天ぷら（梅干しに似た快い酸味）
 セイヨウカラシナ...葉・ゆがき（辛みの中に甘味がある）
 セリ...葉・ゆで（セリの香りが淡い）
 ツクシ...茎・天ぷら、ゆがき、ミリンしょう油で味付け（味は無いが天ぷらもゆでても歯ごたえがよい、味付けしたものは美味しかった）
 ノビル...葉、球根・ゆがき（ネギ臭さがあまりない、球根の方は最後の方で少し苦味を感じる、葉と球根を丁寧に丸めて盛りつけてあった）
 ハコベ...葉・ゆがき（ほのかにハウレンソウと同じ味）
 ヨモギ...葉・天ぷら、ゆで、ヨモギダンゴ（きなこ、みたらし：みたらしはヨモギの味がするが、きなこは分かりにくい。同じ団子でもヨモギの味に大きな差があった）
 レンゲ...葉・ゆがき（全くクセがない）

◎他の場所で採集された植物

ニワトコ...葉・天ぷら（クセが無く味分からない）
 ユキノシタ...葉・天ぷら（クセが無く味分からない）
 ベニシダ...新芽・天ぷら（少し苦味を感じ、歯ごたえが抜群にいい）
 スイカズラ...葉・天ぷら（天ぷらで苦味は少し、柔らかい）
 ナンテンハギ...葉・ゆがき（クセが無い）
 フキ...花・天ぷら（最後の方でフキの味を感じる）

◎調理されなかった植物

オニタビラコ、ノグシ、ニラ（西畑さん持参）、ヒメヒレアザミ

◎摘み菜中に見た植物

アレチギシギシ、アレチノギク、オオイヌノフグリ、オオバコ、オランダミミナグサ、カワラマツバ、キュウリグサ、コセンダングサ、ジシバリ、シロツメクサ、スズメノエンドウ、スズメノカタビラ、セイタカアワダチソウ、セイタカヨシ、セイヨウタンポポ、タガラシ、ナズナ、ノボロギク、ヘラオオバコ、ホトケノザ、マメグンバイナズナ、ムラサキカタバミ、ルピナス、園芸種カタバミ(フヨウカタバミ?)



◎おまけ・「みたらしダンゴの作り方」（レシピ:稲原ヒサエさん）

〈だんご〉

材料：白玉粉・250g、絹豆腐・1丁（軽く水切り）、砂糖・大サジ1
 作り方：材料をよくまぜて団子にし、沸騰した湯に入れ、浮き上がったら出来上がり。（冷水に入れると形が整う）

〈タレ〉

材料：水・1カップ、砂糖・1カップ、しょう油・大サジ3、かたくり粉・大サジ2

作り方：材料を全部鍋に入れ、火にかけ混ぜる。トロミが付いたら出来上がり。

◎参加者：栗田泰子、稲原ヒサエ、稲原良三、今田順子、遠藤エチ子、大津由紀子、岡田三千代、影智恵子、北川ちえこ、木村文子、木村雅行、高見君江、田中光彦、東郷弘子、長島照文、中町芥子、西畑敬一、発ひとみ、古井秀子、山田美鈴、山田良之、河島明子、吹田弘一・章恵・詩子（小3）・琴子（幼）、島田重子、大重文恵、楠本幸子（以上29名）

10 時に北山門前に集合。好天に恵まれ、平日にもかかわらず大変な人出で賑わう。入ってすぐ左手の花壇でちらほら咲きのゴウダソウの花や八重咲のニオイスマレなどを見て進むと、イチゴノキの間にシャクナゲモドキの木が 2 本あった。長居公園のものはもう花が終わっているが、こちらはまだ固いつぼみだった。大阪に比べてやはり京都は寒いのだと思った。それから植物生態園へ行き、あちこちの小道を行ったり来たりして花を見てまわる。サワオグルマがつぼみをつけていた。ゲンカイツツジとその白花品、レンプクソウ科のゴモジュなど南方の花、コショウノキ、ミツマタ、オニシバリ、フッキソウ、ニリンソウ、オオミスミソウ、ユキワリイチゲ、ミヤマカタバミ、スズシロソウ、ワサビ、ツノハシバミ、シキミ、ムシカリのつぼみ、咲き始めたばかりのヒトリシズカ、白花のトキワイカリソウ、ラショウモンカズラ、バイモなどの花が見られた。池の縁にたくさんのフキノトウが花をつけていたので、こっそり一つだけいただき花を分解してみると、中から雌花が顔を出した。このようにフキノトウを観察したことはなかった。

橋を渡ると頭の上にオガタマノキの花があり、枝を引き寄せて花の香をかいだりしていると、通りかかった人がこの花の名前を教えてほしいと言ってきた。絵手紙をやっているんですが、名前がわからない、と言ってその絵を描いたハガキと実物を差し出された。見るとルリムスカリとヒメオドリコソウだった。これらの花もまだタンポポほどには市民権を得られていないようだ。昼前になったので大芝生地端の森のカフェの近く、既に果実になっている中国原産のノニレの周辺で昼食とする。昼食場所の近くには白い花のコゴメイヌノフグリが群生していて、初めて見る人も多く盛り上がった。

食後は針葉樹林を横切りブラジルマツの大きな種子を見て、園の西端にある四季彩の丘に行き、アマミアセビの大きな花、シクラメン、アーモンド、桜島大根などの花を見る。花はなかったが黒長ダイコンというヨーロッパ原産の黒い色の大根も見られた。辛味が強くフランス料理に使われるとのこと、だれの足も連想できなかつた。この頃になると気温が 20 度を超え、厚着をしている者にとってはかなり耐え難くなっていた。

続いて桜を集めて植えている場所で、ウスズミザクラ、オカメザクラ、カンヒザクラ、マメザクラ、キンキマメザクラ、チョウジザクラその他いろいろの桜を見るが、私の頭では覚えきれない。桜林を抜けた所でまだ 1 時半だったが、暑さが限界に近くなったので、ソメイヨシノはまだ咲いていないことを理由に、賀茂川の土手を歩くのはやめて、それでも正門から帰るといふ人たちと、もっと園内を見て回り北山門から帰る人とで、とりあえず解散ということにして、後は別行動にした。

それからアンズの花やボケの花を見てばら園を通り抜け、ハナタバコの黒紫色の花を見て、あじさい園の所から園の最東端の道を北山門に向かう。すぐに今日のもう一つの見どころだった満開のハナノキが見える。枝を引き寄せて確かめるが、3 本とも雄株で雄花だった。盆栽展示場ではシシバのヒトツバなどシダ類の盆栽が主だった。盆栽をやると思われる外国人たちもいた。なぜかムラサキ科のエキウム・シンプレックスの鉢が数鉢あり(これも盆栽か?)、真っ白い花が盛りだった。ようやく北山門にたどり着き、みなさんとサヨウナラをした。やっと喫煙ができた。園内禁煙はなかなかにつかつた。

その他に見た主な花の植物：トサミズキ、オドリコソウ、ヤマアイ、タチツボスマレ、ウチワノキ、ウマノアシガタ、シデコブシ、コブシ、シャガ、ミズバショウ、ウグイスカグラ、ヤマネコノメソウ、クリスマスローズ、クロッカス、スノーフレック、ルリムスカリ、シバザクラ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、ヒマラヤアオキ、多くの品種のツバキ、クレソンなど。

◎参加者：栗田泰子、稲原ヒサエ、稲原良三、影千恵子、狩野登之助、北川ちえこ、鈴木永子、高見君江田中光彦、中野潤子、西尾フミ子、西畑敬一、発ひとみ、美藤ルミ子、石井洋子、大隈あけみ、川崎節子北川敏子、難波幸江 (以上 19 名)

里山一斉調査は公益社団法人・大阪自然環境保全協会主催。今年で 35 年目を迎える。当初は里山動物調査として、大阪の里山に生息する哺乳動物の調査を目的としていた。毎年この時期に大阪府内 10 数カ所のポイントに一斉に調査に入る。私とこや会員の子どもたちも小さい頃よく一緒に行っていて、我が家でもたまに、“ふん探し”をしたなあ話題になることがある。現在の調査は、“観察しながらウォーキング”「春を探しに出かけましょう。里山を歩いて見つけよう、春の花、動物たちのサイン」として、哺乳動物だけでなく、草花、樹木、野鳥や昆虫“めっけ！”と誰もが参加しやすい形になってきた。

さて、調査ポイントの一つ「四條畷・田原の里山コース」は 23 年目。ここも当初から北河内自然愛好会との共催で毎年行っている。いつもなら集合場所の飯盛霊園の桜は盛りを過ぎていることが多いのだが、今年の桜の開花状況はやや遅く、丁度満開を迎えていた。バス停横で日曜朝市を出している下田原のおばさんたちとしばし談笑。車で来ている人は、葉ものはダメだろうけど大根やシイタケは車に置いていてもいいだろうと買い求めていた。

朝少し雨が残っていたが、青空も見えだしてだいじょうぶだと出発した。愛好会は 4 月に別の例会を持つので自主参加となったが、総勢 15 名。この日は子どもの参加、何と 6 歳の男の子がお父さんと来た！人なつっこい子で、誰とでもおしゃべりをしたり、手をつないだり。田原台一丁目の空き地で早速植物観察。ここの開発時、土砂はそのまま使ったのか、カンサイタンポポが残っている。セイヨウタンポポとの違いを親子連れに説明。私はスズメノエンドウとカスマグサの違いを実物を見ながら教えてもらった。ちなみに、両種をバインダーに挟んで 1 日持ち歩いて、帰宅後水に挿していたら、未だ生きていて豆莢ができています。強いなあ!!

山道に入ると、いつものことながらコバノミツバツツジのショッキングピンクが色鮮やか、ヤマザクラが爽やかに。尾根道のあちこちにモグラの通り道のもこもこ盛り上がっているところや小さなネズミの穴が見られる。件の男の子、A くん、早速ネズミの穴を見つける。そう言えば上記した子どもたち、大人よりよくふんを見つけたものだった。低い、子ども目線が生きているのでしょうか。A くん、いつの間に見つけたのか（誰かにもらった？）エビフライを 1 つ手にしていた。アオモジの黄色い花も鮮やかだった。

葉尾寺池の手前で、下見の時に見つけていたリスの巣をもう一度観察。しかし判定は鳥の巣ということだった。池の土手にはツクシやスミレ、キランソウなど。そこで、A くん親子がウサギのふんを見つけた。「ふん、あったよー！」と大きな声で言って教えてくれた。

気になるのは、池の下の水溜りのカスミサンショウウオの卵のう、ここ 2 年ほど極端に少なくなっている。やはり、卵のうは 2 対 4 個、それにもまして驚いたのは成体がじっとしていた。おなかのあたりが大きく、卵を産みに来ているところのようだ。これまで成体の写真を撮るのは至難の技で、浮かび上がって来たところを、さっとカメラを向けて撮ろうとしても、すぐに落ち葉の下にもぐりこんでしまっ、なかなか撮れなかった。生きていのかどうかは分からないが、枝でつつくのもかわいそうな感じで、そのままにしておいた。（後日 4/20 確かめに行ったが、成体は見当たらず。死んではいなかったようだが、この時期に産卵は考えられないが…。卵のう 1 つはもぬけの殻状態だった。）

三叉路分岐のところでクチベニタケをつついて白い粉を出したりして、堂尾池に向かった。池のほとりでお昼ごはん。池端にはセリやクレソンが群生している。ここのツクシは茎が太く、伸びたばかりの美味しそうなものだった。寝屋川市の山田さんが A くんタンポポの茎の笛を教えていたが、うまく鳴らなかった。まとめの会をして終了した。

◎観察した植物（花・つぼみのあるもののみ）：田中光彦さん記録

アオキ、アセビ、コバノミツバツツジ、モチツツジ、ウスノキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、ナガバノモミジイチゴ、ニガイイチゴ、アオモジ、ミツバアケビ、ゴヨウアケビ、オオバヤシャブシ、ヒメヤシャブシ、ニワトコ、カンサイタンポポ、セイヨウタンポポ、ハハコグサ、ノグシ、オニタビラコ、コオニタビラコ、ノボロギク、ハルジオン、ニガナ、フキノトウ、ヘビイチゴ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、コメツブツメクサ、ゲンゲ、スマレ、ツボスマレ、ヒメスマレ、シハイスミレ、タチツボスマレ、ニオイタチツボスマレ、ナガバノタチツボスマレ、オランダミミナグサ、ノミノツヅリ、ハコベ、コハコベ、ツメクサ、ツボミオオバコ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ムシクサ、タネツケバナ、ミチタネツケバナ、タチタネツケバナ、オランダガラシ、ショカツサイ、ナズナ、ムラサキサギゴケ、キュウリグサ、カキドオシ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、キランソウ、ツクバキンモンソウ、ヒメウス、スイバ、シャガ、ショウジョウバカマ、シュンラン、スズメノヤリ、ヤマスズメノヒエ、アオスゲ、ヒカゲスゲ、スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、カズノコグサ、ツクシ

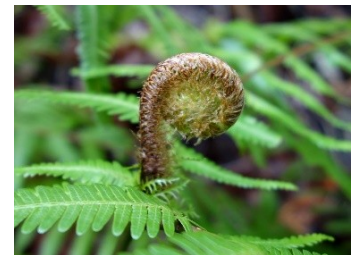
◎まとめの会・その他の確認種

哺乳類：イノシシ、リス、ノウサギ、モグラ類、ネズミ類 その他：カスミサンショウウオ、カナヘビ
鳥：アオゲラ、ウグイス、エナガ、ハシブトカラス、ハシボソカラス、カワラヒワ、コゲラ、コジュケイ、シジュウカラ、スズメ、ハクセキレイ、ツグミ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ、ヤマガラ、イソヒヨドリ、センダイムシクイ、コチドリ、ケリ、カイツブリ

◎参加者 栗田泰子、太田理、木村雅行、田中光彦、山田晃、山田美鈴、山田良之（以上 7 名、保全協会参加者含めて合計 15 名）

§§下田原の里山・里山一斉調査で記録したシダ植物（木村 雅行）

ヤマザクラやコバノミツバツツジが咲くなど一気に春の山らしくなりましたが、まだヒメワラビやイヌワラビ類などの夏緑性のものの姿が見えませんでした。ツクシは旬を過ぎてもう伸びきっていました。ワラビ摘みの季節はもうすぐそこまで来ているようです。シケシダは湿った地面の上で小さな新葉を今まさに展開中でした。ベニシダは新芽が株元でぐるっと巻いた状態のものが多く見られました。イノデは展開が少し早くて新葉が犬のしっぽのように立ち上がってきていました。ウラジロにも昨年の葉の上に巻いた新芽がおいしそうにっていました。（これを洗ってそのまま天ぷらにしましたが、とても苦くて食べられませんでした。）



ウラジロの新芽

飯盛霊園～薬尾寺池～堂尾池～飯盛霊園で記録したシダ植物(2017.4.9)

ヒロハノトウゲシバ、スギナ、オオハナワラビ、フユノハナワラビ、キジノオシダ、コシダ、ウラジロ、カニクサ、ウチワゴケ、コウヤコケシノブ、コバノイシカグマ、イワヒメワラビ、フモトシダ、ワラビ、ホラシノブ、イワガネゼンマイ、イワガネソウ、オオバノイノモトソウ、イノモトソウ、アイイノモトソウ、トラノオシダ、コバノヒノキシダ、シシガシラ、オオカナワラビ、リョウメンシダ、ヤブソテツ、ホソバヤマヤブソテツ、ナガバヤブソテツ、ベニシダ、トウゴクシダ、オオベニシダ、アイノコクマワラビ、オオイタチシダ、ヤマイタチシダ、ナンゴクナライシダ、ドウリョウイノデ、イノデ、ジュウモンジシダ、ゲジゲジシダ、ミゾシダ、シケシダ、ミツデウラボシ、マメツタ、ノキシノブ計 44 種（記録者：木村雅行、田中光彦、栗田泰子）

《会員交流コーナー》*****

§§<空飛ぶ蜘蛛>総会後の懇親会でひとしきり話題になった。以前に飯盛霊園横の下田原の田んぼで偶然に西畑さん、平さんが見られた!!小説に描かれていたと思って…家に帰ってあれこれ思い出して…。確か宮本輝の小説「約束の冬」に岡山県総社市か高梁市のとある田んぼから蜘蛛が飛び立つ様子が描かれていました。新潟県では「雪迎え」といって雪の訪れる季節に見られる現象だと。多分その小説は間違いないと思うのですが、皆さん確かめてください。(1/21・太田理)

§§<空飛ぶ蜘蛛>下田原で見たクサグモが群れで空に舞い上がる光景は感動的なシーンでした。今でもはっきり覚えています。クモは一か所で凄いい数が生まれ、分散しなければお互いに生きていけません。しかし、動きは遅く、散りじりにはなれません。そこで生まれてすぐ、尻から糸を出して上昇気流に乗せてパラグライダーの様に飛行して移動します。素晴らしい知恵ですね。昨日の(総会発表の時の)画面の中にクモのいろいろの画面の中で、それに触れようと思っていたところでした。ムシはそれぞれに素晴らしい生きかたをしています。(1/22・平 研)

§§<空飛ぶ蜘蛛>下田原でのクモの飛行、その様子を写したことを思い出して、古いハードデスクを引っ張り出して探したらありました。田んぼ一面にクサグモの群れが巣を張り巡らして、巣立ちする子クモは草の葉の上に出て、尻を上向けて糸を吐き出して、上昇気流に乗って糸が上に伸びていき、ある長さになったとき足を放すと、クモの体は糸に引かれて空中に上がって行きました。初めて見る衝撃的な感動でした。写真の巣の上に白い筋が二つ見えるのがそれです。その2日後に家内を連れて見に行ったら巣はクチャクチャになっていました。(1/23・平)

§§<教えて>1月22日鞆公園で見つけた実生ですが、名前が分かるでしょうか。雨が降っていたので、余り観察もせず写真を撮っただけです。分かりましたらお願い致します。鞆公園のバラ園は寒い季節にも関わらず、綺麗な花を咲かせていました。とても栄養が効いていたのでしょうか、下草のスズメノカタビラ、タネツケバナ、ホトケノザは青々と地面を覆い立派な花を咲かせていました。(1/29・北川ちえこ)

§§<冬を越すヤモリ親子>今日、プロの昆虫写真家、伊藤ふくおさんと私市植物園を歩きました。冬を越すムシたちの中に、説明板の裏の樹皮の割れ目に、親2匹の間に小さな子ヤモリが抱かれるように潜んでいました。両親で子供を育てているのでしょうか。偶然に3匹がここで越冬する羽目になったのか。それはともかく、微笑ましく、温かいムシの生き様を見せてくれました。(1/30)この冬を越すヤモリの親子の寝姿、人間の親子の川の字の寝姿と同じですね。ムシは楽しいです。(1/31・平)

§§<スズメバチの巣>高さ50cm。山でこの巣を見つけて1月末に確保しています。10mほどのクヌギの大木にあったものです。倒木した際に衝撃で写真のように、うまく内部を観察できる状態に表面がはがれて観察見本のようになっています。(2/3・稲原良三)

§§<回答>そのスズメバチの巣、8段ぐらいの層を重ねておるようですが、その各層を繋いでいる繋ぎの大きさの変化と数を調べてみてください。スズメバチがこの複雑な構造の巣をどのように強度的に作り上げているか。ムシの素晴らしさがそこに見えるかもしれません。6角の子供部屋も意味があるでしょう。いきものふれあいセンターで勤務していたとき、このハチ巣を見つめていて、感動でため息をついたことを思い出しました。(2/3・平)

§§<寝屋川市環境展示>寝屋川市総合センターで、寝屋川市自然を学ぶ会、山田さんたちが中心となって展示会が行われています。北河内から平 研氏の「犬も歩けば・・・」の興味深い画像が多くの人の興味を集めているようです。2月2日～8日、10時～4時行われています。是非皆さん足を運んでみてください。(2/3・太田)

§§<イタチの溜め糞?>写真を見てください。私の家の前の駐車場の隣の家との境目のブロックの隙間に、何とびっしりとイタチの糞が溜まっている!!確かにイタチの糞、だと思ふ。ずっと以前から家の周りや庭で見かけていました。イタチ君は夜半に徘徊しているのか?タヌキならず“イタチのため糞”はあるのか?! (2/3・太田)

§§<回答>チョウセンイタチでは?大阪ではホンドイタチはほとんど見られなくなっているそうです。一回り大きいチョウセンイタチに駆逐されたようです。イタチは倉庫や天井裏などをねぐらにして?殖してするようです。屋根や壁に張られている断熱材などで巣をつくるとか。糞尿による被害が報告されています。(2/4・平)

§§<オーサブ(おう 寒む)>天野川の岸で、ヒヨドリが「オーサブ」と膨れていました。(2/11・平)

§§<雪の庭の鳥>この冬初めての庭の雪、餌台にはスズメの群れ、シジュウカラ、シロハラ、メジロ、ヤマガラ、ヒヨなど、炬燵から楽しみました。このメジロは♂のようです。春になってもここに来て、素晴らしい囀りを聞かせてくれないかなあ。毎日餌を置いておくから。(2/11・平)

§§<なんでやねん>寒い花の少ない時期、ツバキの花が開いています。この花、花粉を媒介する昆虫が姿を見せないこの時期に花を咲かせるのは、なんでやねん。五枚の葉弁が分厚く堅いのはなんでやねん。赤く色鮮やかなのは、なにに見て貰おうとしているのか。この花を訪れるのは、メジロとヒヨ、その鳥たちとの間に見られる共進化、何があるのか。この花を見ながら、黒潮の流れなどを交えながら、自分なりに諸々に思いを巡らすのは楽しいですね。この花が好きで、庭には20本あまりのツバキが毎年、メジロとヒヨを呼んでいます。(2/25・平)

§§<くろんど池>天気が良いので、くろんど池で日光浴でもしようかと、歩行困難の婆ちゃんを乗せて、磐船、高山経由で走りました。くろんど池には、マガモ、オオバン、ヨシガモの群れが60羽ぐらい、弁当を広げているとすぐそばまでシロハラ、ビンズイ、カワラヒワなどが寄って来てくれました。(2/28・平)

§§<キガシラヒヨドリ>ツバキが咲き誇るこれからの季節、面白い珍鳥(キガシラヒヨドリ)が出現することがあります。出会えたら写して送信してください。(2/26・平)

「平様 キバシヒヨドリはよく見ますが、キガシラヒヨドリは数年前のものです。どちらもツバキの花粉です。」交野バード・向井苑子様より

「向井さん、素晴らしく見事なキガシラヒヨドリの画像、ありがとうございます。早春で最も楽しい鳥の姿の一つで、これを見た時の嬉しさは格別です。ツバキとメジロとヒヨ、この黒潮潮流帯のコンビ、ツバキの花弁の分厚く頑丈さもこのコンビの中で、進化してきたのでしょうか。こんなことに思いを馳せてみると一段と楽しいです。」(3/2・平)

§§<こんなのも・・・>昨日のくろんど池、こんなものもありました。ここにある大相撲の浅香山部屋の稽古場では、来たる大阪場所に備えた幟が、風にはためいていました。この建物の中には、土俵があるだけです。(3/1)ドライブの途次、くろんど池に立ち寄ったところ、ここのホテルを宿舎にしている大相撲の浅香山部屋の力士たちが、稽古をしており、多くの人が窓から覗いていました。(3/8・平)

§§<白スズメ>私市の白スズメ、私も見に行きました。徳永さんとも出会ったので、教えてもらい、見ることができました。田んぼの中で長い間餌をあさって写させてくれました。これほどのアルビノのスズメは初めて見ました。ここにいつまで姿を見せるか興味があります。先天性のメラニンの欠乏症で、動植物の広い範囲に出現するそうです。白へびなどは昔、神の使いとして崇められた記録があります。(3/10・平)

§§<白スズメ>珍しいですね、わたしも随分前に自宅の近くの田んぼで白スズメを見ました。このスズメは2年ほど姿を見せてくれましたが、それ以後姿を見ていません。スズメにもアルビノが現われるのですね。私は自分勝手に詳しくは調べたことは無いのですが、十姉妹の逃げ出したものと交雑した可能性があるのではと思っています。確認ができればいいのですが、私には無理です。(3/10・西畑敬一)

§§<ユキスズメはいませんでした>私市のユキスズメを見に行ったが、現れませんでした。そこでお会いした徳永さんは「ここ4~5日姿を見せてない」と。所属グループが餌場を変えたのでしょうか。川のほうに目をやるとそこに「俺が代わってやろか」と、ジョウビタキが目の前で長い間、いろいろなポーズをとってサービスしてくれました。子供のころ、ジョウビタキは「ヒン、ヒン、コツ、コツ」と鳴くので、ヒンコツという名で呼ばれていました。冬の子供には鳥を捕ることが大きな遊びでした。メジロやホオジロはよく捕れましたが、ヒンコツはどうしても捕れませんでした。このヒンコツの控え目な音色の囀りはまた絶妙で、憧れの鳥でもあり、現在の私にまだその尾を引いています。田んぼの畔には、ホトケノザが万一の用心に閉鎖花を備えて咲いていました。その用心深さと知恵、生きようとする食欲さ、こんな小さな雑草がね…。(3/17・平)

§§<犬も歩けば—新池桜蕾>老犬は寒さに弱く、弥生3月の末、今朝やっと早や起きて歩きました。星田新池にはキンクロ3羽が潜りを繰り返していました。堤防のソメイヨシノは蕾が膨らみ開花寸前、傍り川堤防のオオシマザクラは満開。今年のソメイヨシノは遅いですね。(3/31・平)

§§<キジバトの婚姻色?>庭の餌台にやってきたキジバト、色がおかしい。ピンクがかってなまめかしい色、キジバトも婚姻色になるのか。初めて見ました。庭の餌台に来たキジバトのこの色、なまめかしく華やいでいます。婚姻色でしょうか。(4/11・平)

§§<ジャコウアゲハの羽化>本日、我が家の庭でジャコウアゲハが羽化しました。生憎の風の中、懸命に羽を広げて旅立とうとしています。(4/12・西畑)

§§<交野の自然>〔くろんど園地の八ッ橋〕と言っても移植ですが、しかし花に罪はない。可憐で素敵です。ショウジョウバカマ、カタクリ、ミズバショウがみどころです。(4/13・稲原)

§§<犬も歩けば—ムシ・一本桜>早朝ウォークを再開した私を迎えてくれたのは、新池堤防の満開の一本桜、水面に映る新芽をもやし始めた森、生まれたばかりの新鮮な命の小さなムシ、それぞれ三カ所で存在を知らせたウグイスとシロハラたちでした。春爛漫、生きとし生けるもの皆、動き出しました。(4/15・平)

◎会員異動について(敬称略)

入会：中野潤子(岸和田市・1/21) 西川節子(岸和田市・1/21) 藤原くに代(岸和田市・1/21)
岩井幸恵(岸和田市・1/21) 影 千恵子(枚方市・1/30) 島田重子(東大阪市・3/25)
谷 幸三(再登録・3/31)

◎編集後記：総会時の会員発表は折角の映像をお楽しみいただけなくて、申し訳ありませんでした。2月に寝屋川市自然を学ぶ会が中心となって寝屋川市市民総合センターで展示会が行われました。当会の出展として、平研さんの「私の自然観察〔犬も歩けば…〕～小さな生き物たちの世界」が展示され、皆さんの興味を集めているようでした。編集等について皆さんのご意見ご要望、またお気軽なご投稿をお願いいたします。(太田)

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114

◇会費の納入・会計に関して：稲原良三 072-892-8507

◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか
郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000 円 郵便振替 00970-4-103735

目 次

2017 年度北河内自然愛好会総会-----	1
第 381 回例会「鶴見緑地野鳥観察」平 研-----	2・カラーグラビア版
第 382 回例会「野草を食べるー山田池公園」北川ちえこ-----	2
第 383 回例会「春の京都植物園」田中光彦-----	4
第 384 回例会「下田原の里山・里山一斉調査」太田 理-----	5
§§「下田原の里山・里山一斉調査で記録したシダ植物」木村 雅行--	6
会員交流コーナー-----	7
会員異動、編集後記-----	9
カラーグラビア版-----	別刷
例会案内-----	別刷



岡田雅彦氏画「アヤメ」